

語り部（現地体験プログラム）

本プログラムは、震災を体験した語り部とともに、釜石東中学校・鵜住居小学校の児童生徒が当時避難した避難道を歩いたり、当時校舎があった場所である復興スタジアムを見学したりしながら、当時の出来事を肌で感じられる内容となっています。また「いのちをつなぐ未来館」の展示も、語り部の解説とともにご覧いただけます。1時間半コース（①か②のいずれかを選択）と2時間半コース（①②のどちらも）の2種類をご用意しています。



① 避難路追体験

鵜住居地区で多くの方が亡くなった一方で、その地区の小中学生のほとんどが生還した経緯から、児童生徒の避難の過程は、賞賛されるまでに至りました。しかし、その当日の避難の実態としては、さまざまな困難に直面しつつも、それを乗り越えて、なんとか生還できたと言った方が適切かもしれません。

本プログラムでは、その舞台となった鵜住居小学校と釜石東中学校があった場所から、高台への避難の道を参加者の皆様と歩きながら、当日の出来事や避難所での生活について、お話しできたらと思っています。



鵜住居地区
釜石市北部の海に面した住宅街。当時、釜石での死者・行方不明者のうち、この地区の被害が6割を占めました。



避難路
児童生徒はおよそ40～50分間、いくつかの避難場所を経由しつつ、約1.6kmの道のりを走り続けました。

② 釜石鵜住居復興スタジアム見学

「釜石鵜住居復興スタジアム」は鵜住居の復興の象徴と言える存在です。本プログラムでは、震災や建設のエピソードをお話することに加えて、内部（ロッカールームなど）までご見学いただけます。釜石市は歴史的にラグビーが非常に盛んで、2019年には記憶に新しいラグビーのワールドカップの試合も、このスタジアムで行われました。現在は、実業団チーム「釜石シーウェーブスRCF」もこのフィールドを使用しています。展示室では、釜石にゆかりのあるラグビー選手に加え、過去にお越しいただいた著名人のサイン等もご覧いただけます。

※本プログラムでは、グラウンドには立ち入りいただけません。
※お客様都合によるキャンセルがあった場合は、キャンセル料が発生いたします。



③水門・防潮堤見学&震災語り部

沿岸広域振興局土木部では、震災からの復旧・復興に向け、水門や防潮堤といった津波防災施設の整備を行いました。地域の安全を担う津波防災施設について理解を深めてもらうことが、地域の防災力向上に向けて重要であり、施設整備と並行して、津波防災施設の管理者の視点による「津波防災に係る啓発」と「震災伝承」の語り部をいのちをつなぐ未来館と協同で実施いたします。

※沿岸広域振興局土木部が対応出来ない場合は、いのちをつなぐ未来館スタッフのみの実施となり、操作室内はご見学いただけません。



操作室の見学

普段見ることが出来ない操作室内にて設備についての説明をいたします。

※水門管理者が対応出来ない場合は、ご見学いただけません。



震災伝承語り部

いのちをつなぐ未来館スタッフにより、震災当時の出来事やまちの復興についてお話いたします。

詳しい料金・申込方法に関しては、ホームページに掲載の「申込要項」および「申込書」をご参照ください。

お問い合わせ先：いのちをつなぐ未来館 TEL：0193-27-5666 FAX：0193-27-5667

E-mail： tomosu@dmo-kamaishi.com URL： <http://unosumai-tomosu.jp/>